6・4開幕!!GⅠ「宮島チャンピオンカップ」開設72周年記念」制覇へ燃える支部長

広島支部のレーサーを中心に深掘りするインタビュー企画スタート

山口 最高の心技体で

「冷静さを失わずにしっかりと準備をする そしてやり切った結果として 優勝まで持っていけたら一番いいですね」

今、ボートレースが熱い!宮島も熱い! 広島支部のレーサーを中心に深掘りするインタビュー企画「宮島でブチ上げ!」がスタートする。記念すべき第1回は、選手会の広島支部長を務める山口剛（43＝広島）をピックアップ。SG2冠、GⅠ・12度Vを誇り、常に全力投球の男が、6月4日から開幕のGⅠ「宮島チャンピオンカップ開設72周年記念」への思いを語った。

イメージ〝全力〟

〝全力〟。ボートレーサー山口剛のイメージは? と聞かれると、大半のファンはそう答えるのではないか。02年11月、宮島でのデビューから約24年。強くなりたい、勝ちたい一心で水面を駆け抜けてきた。

「最初の頃は、広島の先輩方がとにかく強かった。全力で向かっていかないと絶対に勝てないと思っていたので」。西島義則をはじめ、市川哲也に辻栄蔵…。今なお第一線で活躍する猛者を相手にむき出しの闘志で挑み、自身のステータスを高めていった。時に気持ちを抑え切れないあまり、レースを壊したことも決して少なくなかった。「自分をコントロールできていないのに、ボートをコントロールできる訳がないですよね」と、当時のことを自嘲気味に振り返る。全力で走りつつ、いかに自分をコントロール下に置くことができるかが永遠の課題だという。トップランカーの1人となった今も、取り組むスタイルは変わらない。

そんな山口も今年で44歳。ベテランの域にさしかかりつつある。年齢を重ねるのと比例して身体能力が衰えていく。避けては通れないアスリートの宿命だが、それには異を唱える。「ボートレーサーは体をしっかりケアすれば、他のスポーツと比べてまだまだやっていけるので」。40歳にさしかかる少し前から自己投資を惜しまずに行っている。トレーニングしかり、食生活しかり。予防医学の専門家によるアドバイスにも真摯（しんし）に耳を傾ける。驚くなかれ、理想とするのは80歳でなお、現役でいられることだという。「今の健康状態をキープできれば、あと40年近く走れるってことですよね」。走るだけではない。SGやGⅠでも活躍できる存在でありたいと意を強くする。

「山口って選手、あの年齢ですごいよなって、思われたい。当然、これから頑張らなきゃいけないことは増えてくるだろうけど、今は取り組めているし、体も衰えていない。それをどれだけ続けていけるかだと思います」。それもこれもボートレースが天職だからこそ。「僕にはボートレース以上に心躍るものがない。ここで結果を出すことが、自分にとって最高のご褒美ですから」。

「コントロール」

自身のみならず、広島支部、特に若手の底上げにも真正面から取り組んでいる。2年前に選手会広島支部長に就任し、2期目に入った。若手が活躍するには、どうすればいいのか? 練習メニューを考案しつつ、自らも参加する。山口イズムを注入するだけでなく、フィードバックを受け入れることで相乗効果を図り、スキルアップする環境を整えている。

さあ、宮島チャンピオンカップが始まる。宮島でのGⅠ優勝は24年の中国地区選1度のみ。SG2度V、GⅠ12度Vの実績を考えると意外でもあり、是が非でも欲しいタイトルだ。「地元だし、毎回強い覚悟と気持ちで（レースに）行って、優勝戦に乗ってはいるんですけど、届いてないですね…」。ここで改めて口にしたのが自分をコントロールしつつ、全力を出し切るということ。「冷静さを失わずにしっかりと準備をする。そしてやり切った結果として優勝まで持っていけたら一番いいですね」。心技体に加えて機力、全てがシンクロナイズしたその時、歓喜のゴールが待っている。

◆山口剛（やまぐち・つよし）1982年（昭57）8月23日、広島県生まれ。91期生として02年11月の宮島でデビュー。初優勝は04年5月のびわこ。GⅠ初優勝は08年1月の丸亀新鋭王座（当時）、SG初優勝は10年3月の平和島クラシック。通算優勝は58度。うちGⅠ12度、SG2度。同期には久田敏之、郷原章平、川上剛、長嶋万記、三浦永理らがいる。160セン、56キロ。血液型A。

写真で見る山口の主な優勝

GⅠ新鋭王座決定戦（08年丸亀）

SGクラシック（10年平和島）

GⅠ中国地区選手権（24年宮島）

SGチャレンジC（25年福岡）

広島支部長・山口剛が地元GⅠ制覇へ燃える（切り込み写真も）